

ISSN 2435 — 0885
CODEN : SDSKF 6

島根大學生物資源科學部研究報告

Bulletin of the Faculty of Life and Environmental Sciences
Shimane University

No. 30 2025

島根大學
Shimane University
Matsue, Japan
January, 2026

目 次 CONTENTS

[学術論文]

Research Papers

河本苺夏・比嘉真美・内藤一真・西村浩二・地阪光生・清水英寿

エイコサペンタエン酸の抗脂肪形成作用に関する機序検討：PPARs および cAMP シグナル伝達経路に着目して----- 1

Ryousuke Nange1・Makoto Ueno

Inhibitory activity of Shikuwasa peel extract against the Fusarium wilt disease
caused by Fusarium buharicum----- 8

河合駿介・大野紗椰・菊川裕幸・山下 多聞

副資材に竹チップを利用した堆肥製造の試み----- 13

島根大学生物資源科学部研究報告（令和7年度版）

（学術情報委員会）

投稿規定

- (1) 島根大学生物資源科学部研究報告は、原則として年1回発行する。
- (2) 本研究報告には、島根大学生物資源科学部の教職員、院生、学生、外国人研究者、ならびに学術情報委員会において認めたものが投稿することができる。
- (3) 本研究報告に掲載する内容は、原著論文、総説および解説などとする。
- (4) 原著論文、総説、解説の執筆要領は、別に定める。
- (5) 投稿予定者は、あらかじめ投稿申込書を提出し、所定の期限内に投稿原稿をFormsにて提出する。
- (6) 本研究報告の投稿者は、投稿前に共著者全員から以下の内容について同意を得た上で、その同意を証する所定の様式による同意書を、投稿原稿とともに提出すること。
 - ① 共著者として本研究報告に投稿することへの同意
 - ② 採択された場合に、掲載内容が以下の媒体に公開・利用されることへの同意：
 - ・ 生物資源科学部のホームページ
 - ・ 島根大学附属図書館のオンラインリポジトリーシステム
 - ・ EBSCO Publishing社が提供するEBSCOhostデータベース
 - ・ 科学技術振興機構（JST）のデータベース
- (7) 使用言語は、日本語または英語とする。
- (8) 原著論文、総説、解説の長さについては、特に字数制限は設けないが、内容の妥当性および簡潔性に配慮すること。
- (9) 投稿原稿の掲載の可否は、学術情報委員会が審査のうえ決定する。
- (10) 本研究報告の記載事項の著作権は、島根大学生物資源科学部に帰属する。
- (11) 本研究報告において認められた利用に関しては、著者が許諾者である場合は著者人格権を行使しないものとし、許諾者が著者でない場合は、著者に著者人格権を行使させないものとする。
- (12) 本研究報告の公開方法は、PDF化したものを以下の媒体に掲載することにより行い、学術情報委員会が決定する。
 - ・ 生物資源科学部のホームページ
 - ・ 島根大学附属図書館のオンラインリポジトリーシステム
 - ・ EBSCO Publishing社が提供するEBSCOhostデータベース

執筆要領

- (1) 原稿はパソコンコンピューターと汎用されている文書作成ソフトウェア（MS-WORDなど）を用いて作成し、添付ファイル等と出力原稿を提出する。
- (2) 図および表の掲載は、論文に必要欠くべからざるものだけに留め、効果的に挿入する。
- (3) 図および表は、本文に組み込み、「図（Fig.）1」、「表（Table）1」のようにそれぞれ通し番号を付ける。
- (4) 図の題及び説明文は、下部に書く。表の題及び説明文は、上部に書く。図および表の題、説明文、図表中の文字は英文にしてもよい。
- (5) 図および表の大きさは、原則として横17cm、または8cm、縦は24cm以内である。

- (6) 1ページは横書き1行25字、44行の2段組（約2,200字）を基本とする。タイトル、著者名、要旨は段組をしない。上下は2,2cm、左右は1,7cm のマージンとする。島根大学生物資源科学部研究報告No26の論文の体裁に合わせて著者が最終原稿を作成する。句読点は".,",,"を用いる。
- (7) 和文で提出する場合は、日本語の表題と著者名、英語の表題と著者名、英語の抄録(Abstract)に続き、緒言（=前書き、はじめに、序）、材料と方法（=実験方法、実験）、結果、考察（=結果と考察）、総合論議（=まとめ、結論）、謝辞、引用文献、日本語抄録（省略可）の順に記述することを基本とする。
- (8) 英文で提出する場合は、Title, Author(s), Abstract, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Conclusion, Acknowledgement(s), References、日本語抄録の順に記述することを基本とする。
- (9) 表題ページには以下の項目について記載すること。表題、ランニングタイトル（簡略化した論文表題、和文20字以内、英文50字以内）、著者不在中の校正代行者名、図表の枚数、連絡事項。
- (10) Abstractは250語程度とし、Abstractの最後の行にKeywords（5語程度、アルファベット順）をつける。
- (11) 和文、英文を問わず、動植物の属以下の学名はイタリック体とする。
- (12) 文献は著者のアルファベット順に並べる。雑誌の号数は括弧で囲んで表示する。ただし、巻が通しページである場合は号数を省略する。
- (13) 引用文献は著者名のアルファベット順に、例えば下記のように、記載する。

（雑誌）

Aerts, R. and Chapin, F. S. III. (2000) The mineral nutrition of wild plants revisited: a reevaluation of processes and patterns. *Advanced Ecological Research*, **30**: 1–67.

西山嘉寛・吉岡正見（1996）山火事跡地の復旧に関する調査—被災1年目の玉野試験区の状況—。岡山県林業試験場研究報告, 13: 54–92.

Tilman, D., Knops, J., Wedin, D., Reich, P., Ritchie, M. and Siemann, E. (1997) The influence of functional diversity and composition on ecosystem processes. *Science*, **277**: 1300–1302.

上田明良・小林正秀・野崎愛（2001）カシノナガキクイムシの寄主からの臭いに対する反応の予備調査。森林応用研究, 10(2): 111–116.

（書籍）

Bormann, F. H. and Likens, G. E. (1979) Pattern and process in a forested ecosystem. 253pp. Springer-Verlag, New York.

依田恭二（1971）森林の生態学. 331pp. 築地書館、東京。

本文中では「——が報告されている（上田ら 2001）.」「西山・吉岡（1996）は山火事跡地の——」「——に生物多様性が影響する（Tilman *et al.* 1997）.」「Aerts and Chapin (2000) は樹木の養分利用効率を——」のように引用する。

編集委員会

Editorial Board

委員長 清水 英寿
委 員 西村 浩二
秋廣 高志
中務 明
米 康充
長門 豪
石井 将幸
吉田 真明
谷野 章

Chief Editor SHIMIZU Hidehisa
Associate Editors NISHIMURA Kohji
AKIHIRO Takashi
NAKATSUKA Akira
YONE Yasumichi
NAGATO Gou
ISHII Masayuki
YOSHIDA Masa-aki
YANO Akira

令和 8 年 1 月 31 日発行

発 行 者 国立大学法人島根大学生物資源科学部

〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060

発行責任者 上 野 誠
(生物資源科学部長)